

教育相談便り



県立尼崎西高等学校 保健室
カウンセラー 村田 千公
令和5年 12月 5日発行

もう12月、今年も残りわずかとなりました。学校生活、それぞれの目標に向けて取り組んでいることと思います。寒くなってきて、疲れも出てくる時期ではないでしょうか。そんなみなさんに、今回は新しい年に向けて少し気分転換ができそうなお話を届けたいと思います。



スヌーピーで有名な漫画「ピーナッツ」には個性豊かなキャラクターがたくさん登場します。この作品の登場人物のやり取りは心に残るものが多く、日常生活で疲れた心に寄り添ってくれたり、癒してくれたり、生きるヒントを与えてくれたりします。

「ぼくの人生には目的がない、指針も目標も…意味もない…。それなのに幸せだ…、
どうしてだかわかんないや」



繰り返し続く日々「なんのために生きてるんだろう」と考えてしまうときもあると思います。しかし、スヌーピーはそんなことは考えずに好きに踊りたいときに踊って、自由に生きています。目標を持つことも大事ですが、目の前の今を味わうことも大切にしていきたいですね。私は寒い外から、暖かい部屋に入ったときに「暖かいなあ、幸せだなあ」と感じたりします。

🐾 少しだけ紹介 🐾

実はスヌーピーはただの可愛い犬ではありません。徐々に犬らしくらぬ振る舞いを始め、自分の考えを持ち始めたスヌーピーは、人間に頼らなければならない自分にだんだんと腹を立てるようになります。次第に、たとえ奇異に見えようと、くだらなく思われようと、スヌーピーは自らのルールに従って生き、望むがままに行動するようになります。

チャーリー・ブラウンはスヌーピーの飼い主です。フワッと丸い大きな頭で、ジグザク模様のシャツを着た男の子。彼は「世界中に知られた、愛すべき敗者の象徴」と言われているそうです。チャーリー・ブラウンは運に恵まれず、友達であるはずの子どもたちからはバカにされっぱなしです。ですが、どんな時でも頑張る等、へこたれない性格です。

この二人はただの仲良し!というだけではありません。チャーリー・ブラウンにとってスヌーピーは大切な飼い犬で、相棒だと信じています。しかし、スヌーピーにとって、チャーリー・ブラウンは「あの丸頭の子」。でも、二人ともお互いが必要で、そこには絆が存在しています。こういった関係性も人間味があって面白い作品です。



参考文献 『ピーナッツ大図鑑』—スヌーピーとチャーリー・ブラウンと仲間たちのすべて— 著 サイモン・ビークロフト/訳 谷川俊太郎、望月素

今後の予定

12月13日(水)

1月17日(水)

2月7日(水)

3月未定



*日程は変更する場合がありますので、事前に確認してください。
時間は予約の際にお伝えします。

